



臨床糖尿病支援ネットワーク MANO a MANO



“mano a mano”とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

治療中断させないことと 絶えずガンを念頭に診療

[当法人監事]

伊藤内科小児科クリニック

伊藤 眞一 [医師]

糖尿病専門クリニックを開業して38年が経過した。この38年漫然と糖尿病診療していると「ひゃーとする体験、ハッとする体験」を数限りなく味わってきた。こんなことではいけないと反省。まず臨床研究をし、診療にメリハリをつけることにした。「治療中断が合併症発現における最大の危険因子」という糖尿病の大先輩のアドバイスを思い出し、その実態を当クリニックのデータで調べることにした。20年間一度も治療中断したことがなく、ずっと20年間血糖コントロール状態を把握できた155症例で、血糖コントロールと糖尿病網膜症発現の関係を調査してみると、両者にはきれいな相関関係を証明でき、DCCT、UKPDS、熊本スタディのこの点に関する大規模臨床試験と同様の結果をこんな小さなクリニックでも得た事にはひとつの感動があった。

次に治療中断と合併症の関係に関する文献を検索してみた。しかし治療中断の定義が一定しないこと、治療中断した患者が他院に転院したり、その後全く医療機関を受診しなかったりしてしまうと、その後の合併症の確認は全く不可能などのことから大規模臨床試験をはじめとして、まとまった報告は見当たらない。そこで罹病20年の糖尿病患者の中で、この10年当クリニックに定期通院している253名の治療中断あり、なして糖尿病網膜症発現を比較してみた。予想通り治療中断があるグループで、網膜症が有意に多いことが確認できた。やはり大先輩のおっしゃることは正しかった。両研究ともペーパーに残したので、今後後輩の先生方の研究に少しでも参考になれば筆者にとって望外の喜びである。

日本糖尿病学会は2016年に10年ぶりに2001年～2010年45000例の死因調査を発表した。先生方はご存知のように、その発表の参加施設は大規模病院が中心であるので筆者のクリニックのような開業医療施設は含まれていないので幾分不満もある。この死因について当法人が全国レベルから見て唯一実践な組織と筆者は考えているので是非検討していただけないだろうか。

今回の研究での成績は、会員の方々はご存知のように一位ガン、二位感染症、三位は血管障害となっている。一般的な日本人の死因は一位ガン、二位心疾患、三位脳血管疾患、四位老衰、五位肺炎である。何れにしても一位のガンは明らかである。日本人の場合一般的に生涯二人に一人ガンに罹患し三人に一人亡くなるというのが常識になっているが、私たちは糖尿病管理ばかり気になって死因一位のガンの診断を怠っていないだろうか。確かに市町村のガン検診、企業のガン検診、一般的な人間ドックを上手に利用していただくのは効率的で現段階のガン対策としては、最善の方法であろう。胸部X-P、便潜血、腫瘍マーカー(保険的には多少問題はあがあるが)は毎年チェックしている筆者である。



読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。
(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部変更しております。)

問題 糖尿病腎症の病期と適切な運動について誤っているのはどれか、1つ選べ。

(答えは7ページにあります。)

1. 第1期 — 原則として糖尿病の運動療法
2. 第2期 — 原則として糖尿病の運動療法
3. 第3期 — 原則として糖尿病の運動療法
4. 第4期 — 原則として運動可。ただし病態によりその程度を調節する
5. 第5期 — 原則として運動可。ただし病態によりその程度を調節する



報告

第50回糖尿病食を作って食べて学ぶ会

平成30年7月31日(火)立川市女性総合センターアイム
平成30年8月31日(金)ルミエール府中

[当法人会員] 登録管理栄養士 NECライベックス株式会社 前田 万里絵 [管理栄養士]

第50回「糖尿病食を作って食べて学ぶ会」を7月31日立川アイム、8月31日ルミエール府中にて開催し、計38名(うち男性5名)の参加がありました。今回は、「彩り豊かな野菜をとって、夏の疲れを吹き飛ばそう!」というテーマに対し、夏バテ予防回復のコツとして食事バランスやビタミン類の働き、水分補給等について説明させていただきました。今年は特に酷暑であったため、ニーズに合う資料をお渡しできたと思います。調理実習は、シーフードあんかけ焼きそば、トマトとオクラのサラダ、ミックスベリースカッシュゼリーを実習いたしました。患者様からリクエストの多かった麺類を旬の野菜を豊富に使用し、たんぱく質もしっかりとれるバランス食として提案しました。パルサミコ酢を使った彩り豊かな副菜と、

第50回メニュー

- ・シーフードあんかけ焼きそば
- ・トマトとオクラのサラダ
- ・ミックスベリースカッシュゼリー

冷凍フルーツを使って簡単にできるデザートも好評でした。「油は少しで調理できることがわかった。オリーブオイルならば大丈夫と思っていた」「色々な材料を使ってすごい。素材をいかしている味であった」「こんなに食べて良いのかと思った。違う角度から料理を挑戦してみたいと思った」「1人で住んでいるが、調理実習に参加することで、野菜を色々使えるようになってきた」などの声が聞かれました。

次回第51回調理実習は、4月立川、5月府中にて開催いたします。ぜひ患者様にお声をかけていただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。



報告

第25回TAMA生活習慣病フォーラム

日時:平成30年9月8日(土)
場所:調布市文化会館たづくり

[当法人理事] 代表世話人 片山内科クリニック 片山 隆司 [医師]

平成30年9月8日(土)に調布市文化会館たづくりにて、第25回TAMA生活習慣病フォーラムが開催されました。テーマは「知れば納得:認知症~日々の診療に活かせる診断・管理の最新トピックス~」です。

第I部 基調講演は、日本大学医学部内科学系 糖尿病代謝内科学分野 准教授 渡邊健太郎先生より糖尿病専門医の立場から「糖尿病と認知症」についてご講演いただきました。糖尿病治療が認知機能障害の進展を抑制する事をお示しいただきました。第II部 基調講演では、武蔵村山病院 認知症疾患医療センター センター長 福井海樹先生より神経内科専門医の立場から「認知症の正しい理解と、患者に寄り添う治療」としてご講演いただきました。認知症の早期発見の重要性、そして認知症全ステージを通して適宜適切な支援が重要である事をお示しいただきました。第III部 パネルディスカッションでは、「徘徊を繰り返す認知症合併糖尿病の1症例」を石黒清美先生より症例提示をしていただきました。今回はパネリストとして、在宅ケアを専門にされている すまろ在宅クリニック院長 吉川先生にもご参加いただき、多職種のパネラーの先生方と近年医療と介護の抱える問題などを討論いたしました。

終了後のアンケートにおいても、認知症というテーマは興味深い、自分自身の診療・介入を見直すいい機会になった、認知症患者さんと接し方を再考したい…等さまざまな感想・ご意見をいただきました。ほとんどの回答者から“次回も参加したい”という回答をいただく事ができ、当フォーラムへの期待を実感する事ができました。



報告

第12回西東京糖尿病運動指導スキルアップセミナー

日時:平成30年9月9日(日)
場所:興和ビル ホール

[当法人会員] 総合司会 北里大学薬学部 井上 岳 [薬剤師]

2018年9月9日、残る暑さの中、神田(東京)の興和ビルをお借りして「第12回西東京糖尿病運動指導スキルアップセミナー」が開催され、72名の方が参加されました。高齢糖尿病患者において、QOLの質の維持を確保するために、フレイルやサルコペニアの観点からも、如何に転倒を防止するかは重要な課題です。今年度のテーマを“高齢者のための運動療法～転倒防止のための運動療法～”とし、午前の部では、代表世話人である植木彬夫先生より、本セミナーの趣旨と、高齢者の運動生理についてご講演をいただき、その後、世話人より、講義とワンポイントエクササイズ(実技)を交互に繰り返しながら、参加型のセミナーを行いました。また、運動療法のみならず、低血糖を防ぐ観点から含め、食事と運動療法のポイントについても具体的にご説明いただきました。午後の部では、実技中心のプログラムが生まれ、実技1では、世話人である福田麗先生(健康運動指導士)から“高齢者の心をつかむ運動指導”と題して、高齢糖尿病患者の理解力や運動能力に応じた“高齢糖尿病患者が楽しくなる運動指導の実際”について、昼食後の眠気を吹き飛ばすほど、受講者の皆さまが積極的に参加されていました。実技2では、“転倒防止のために必要な身体づくりの指導法”について、理学療法士や健康運動指導士の世話人全員が受講者の近くでフォローしながら、“転倒防止を回避できる身体づくり”、“つまづかない身体づくり”を中心に指導法を学んでいま



した。

本セミナーでは、配布資料が80ページにも及び、休憩時間も十分に確保できないほど内容盛りだくさんでしたが、熱心な受講者の皆さまに助けられ、多くの学びを得ることができたセミナーでした。



- 😊 高齢者の活動量をあげることも運動ととらえることがよく理解できました。
- 😊 具体的な運動療法(身体活動療法)を学ばせていただき、有意義な1日となりました。今後も続けてください。
- 😊 細かい説明、実技、運動の必要性など、大変勉強になりました。まず自分で実践し、指導の中に取り入れていきたいと思ひます。参加して良かったです。

😊 DMの人にどう運動を行う動機づくりになるかわかりませんでした。自分自身も年を重ね、体の老化を感じ、筋肉を減らさない必要性を感じます。本日体験したことを自分でも実行してみたいと思ひました。

😊 本日初めての参加でしたが、とても参考になりました。高齢者の為のストレッチ、筋トレはそのまま自分の体を整えるためのストレッチ、筋トレとして毎日取り組んでいける内容でした。

😊 運動療法＝運動ではなく、身体活動をいかに増やすかが重要なかが分かり、また動けない心をどう動かすか、スキルアップ(指導の工夫)の必要性が十分に理解できました。今後の療養指導に生かしていきたいです。

報告

第22回南多摩糖尿病教育研究会

日時：平成30年9月13日(木)
場所：日本医科大学多摩永山病院

【当法人理事】 南多摩糖尿病教育研究会代表 多摩センタークリニックみらい 藤井 仁美 [医師]

9月13日(木)、第22回となる本会は「高齢者糖尿病の食事と運動」をテーマに開催し、45名の方々にご参加頂きました。特別講演は東京医科大学八王子医療センター 糖尿病・内分泌・代謝内科 理学療法士 天川淑宏先生より「高齢者糖尿病の身体的機能の特徴を踏まえた運動療法」と題して講演頂きました。

「現在、治療の中心となっている薬物療法も食事療法・運動療法の継続により、より一層の効果が期待できる」といった話題から始まり、運動療法を中心に内分泌器官としての筋肉の役割やフレイル対策として「チョコビ歩行」や「筋膜リリース施行」など高齢者へ有効な運動療法をご紹介頂きました。また、地域でのADL維持につながる取り組みとして清川村での活動についてもご報告頂きました。

パネルディスカッションでは、天川先生に加え、本城聡先生(医師)、菅原加奈美先生(看護師)、福島由香里先生(栄養士)に登壇頂き、『明日からできる食事療法・運動療法～高齢者糖尿病のために各職種にできること～』というテーマで座長の森貴幸先生を中心に討議頂きました。高齢社会が進む日本において、より健康寿命を長くするためには改めて食事・運動療法を患者さんに前向きに取り組んで頂く必要があり、患者さんに接する医療従事者それぞれの役割、チーム診療について討議を行いました。



次回は2019年3月14日(木)にて「糖尿病注射療法にまつわる問題点」をテーマとして、クリニックみらい 国立 院長 宮川 高一先生による特別講演と多職種でのパネルディスカッションにて開催予定をしております。興味のある方は是非ご参加をお待ちしております！

報告

第23回糖尿病療養担当者のためのセミナー

日時：平成30年9月30日(日)
場所：東京経済大学

2018年9月30日に、『第23回糖尿病療養担当者のためのセミナー』が開催され、173名の方々にご参加頂きました。当セミナーは午前が講演会、午後は昼食セミナー(講義)及び分科会(グループワーク形式中心)の構成となっています。

午前の部では、まず昨年の学会で報告した、当セミナーの研究内容の発表が行われました。次に2つの特別講演を実施し、高村内科クリニックの植木彬夫先生より『大規模臨床試験の結果をどのように日常臨床に活かしてきたか、あるいは活かしていくか』と題してご講演頂きました。次に東京大学大学院医学系研究科 公共健康医学専攻/健康科学・看護学専攻 教授の佐々木敏先生より『いま糖尿病療養担当者に何が求められているか？栄養疫学の視点から』と題してご講演頂きました。佐々木先生のご講演では、①『患者さんは何を望んでいるか？』、②『「患者がすべき」と信じていることは正しいか？』という2つの観点から、ご講演を頂きました。患者さんの立場に立ちつつ栄養疫学のデータをご紹介してくださり、とてもわかりやすく、非常に興味深い内容でありました。午後



佐々木先生

の部では、昼食セミナーにて専門の先生方による講義形式で、糖尿病治療に関連した幅広い情報提供が行われました。その後の分科会では、全員参加型のグループワーク等を通じ、職種・施設の壁を越

えて活発な意見交換や情報共有の場となりました。



報告

第19回糖尿病予防講演会

日時：平成30年9月29日(日)

場所：ルミエール府中

【当法人理事】 実行委員長 多摩北部医療センター 藤田 寛子 【医師】

2018年9月29日午後、糖尿病協会主催の第19回糖尿病予防講演会は、貴田岡正史代表理事、渥美義仁東京都糖尿病協会会長より糖尿病の現状や対策・支援活動の紹介を含め大変温かいご挨拶をいただき、穏やかに始まった。西村先生からは高齢者では特に低血糖を避



貴田岡先生



渥美先生



西村先生



吉元先生

けることが重要で、そのためにもバランスよく食えること、低血糖だけでなくサルコペニアの面からも極端な糖質制限が危険であること、さらに食後血糖を上げずにカルシウムも蛋白も乳脂肪も上手にとれる「乳和食」で、牛乳嫌いな方も、パサついたものが食べにくくなった高齢者でも口当たりよく誤嚥予防しながら食事を保てる工夫などを具体的に教えていただいた。続いて吉元先生からは、現在の糖尿病患者・予備軍の実態と、食後血糖を上げない(血糖の変動の少ない)食事のとり方と内容について、具体的に一つひとつの食材とGI比を示していただき、例えばニンジンジュースが意外と血糖を上げることや、果物の摂取の時間帯は朝が金、昼が銀、夜が銅で、日中にとった方がよいことなど具体的にわかりやすくお話しいただいた。そして植木先生からは、時刻・時間と周期について、潮の干満と誕生逝去、脳梗塞発生頻度と関連物質濃度の日内変動等の紹介に続いてノーベル賞対象の「体内時計」のしくみや、子供の成績の関連する朝食摂取についてお話しいただき、さらには同量の糖質を含む和菓子・洋菓子の摂取後の血糖上昇パターンをFGMで具体的に示しながら「煎餅よりチーズケーキ」など間食に対する最新の指導を紹介いただいた。いずれのご講演も日常生活に直結する貴重な情報が満載で、会場からの質問も絶えず、非常に満足度の高い講演会となった。



大型台風24号襲来に備え緊迫した状態の中、250名以上の市民の方々がご参加下さり大盛会のうちに閉会となり、お力添えいただいたすべての方々に、心より感謝申し上げます。



- 😊 糖尿病に関する新たな知識を得られました。ありがとうございます。
- 😊 乳和食の料理はとても参考になり、今日から実践します。
- 😊 大変わかりやすかったです。今までのカロリー制限からの考えから随分変化があることを知りました。
- 😊 食生活の話、今までの知識が間違っていたものがあり参考になりました。
- 😊 患者さんに解りやすい内容だったと思います。指導する立場として参考になる話題が多数あり、勉強になりました。参加させていただいて良かったです。
- 😊 植木先生の“時間”のお話とても面白かったです。糖質の量が同じでも血糖値の上がり方がこんなに違うのは初めて知りました。
- 😊 どの話も興味深く、大変勉強になりました。時間栄養学、乳和食など、今日から実践してみたい内容でした。仲良く糖尿病とつき合っていきます。

報告

第35回武蔵野糖尿病研究会

日時:平成30年10月13日(土)

場所:国立市商業協同組合さくらホール

平成30年10月13日(土)国立さくらホールにて、『第35回武蔵野糖尿病研究会』が「訪問看護とGLP-1受容体作動薬」をテーマに開催されました。

基調講演は、武蔵野赤十字訪問看護ステーションの豊島 麻美先生より「高齢糖尿病患者の在宅療養支援・連携の重要性～患者という視点から生活者という視点へのシフト～」について外来の看護経験から在宅療養支援・医療連携についてご紹介いただきました。実際に豊島先生が武蔵野赤十字病院の外来から訪問看護に移行しながら現在も共に歩んでいる患者さんの病態、生活、薬物治療等、具体的な内容を交えながら患者さんへの介入について詳しくお話をいただきました。特別講演は、順天堂大学大学院医学研究科 代謝内分泌内科学 教授 綿田 裕孝先生より「GLP-1受容体作動薬はどのように糖尿病治療の進歩に貢献するか？」について、糖尿病患者の疫学、大規模臨床試験をお示しいただきながら、糖尿病の様々なリスク因子、糖尿病治療の歴史、今回のテーマでもあるGLP-1ホルモンの紹介からGLP-1受容体作動薬の効果・安全性をご紹介いただきました。先生からのメッセージは100万通りの個別化医療 遺伝・病態・併存疾患のみではなく、生活様式・ライフスタイル・個人の価値観を重視して医療を選択することが重要とまとめていただきました。

当日は45名の先生方にご参加いただき、質疑応答でも熱心な意見交換がされ、大変有意義な会となりました。



報告

第2回チームで学ぶ糖尿病ワークショップ

日時:平成30年10月14日(日)

場所:立川相互病院横 講堂

平成30年10月14日(日)に立川相互病院にて、「第2回チームで学ぶ糖尿病ワークショップ」が開催されました。今年も徳島大学・黒田暁生先生をお招きして「お寿司から学ぶカーボカウント」をテーマにご講演いただきました。例年、各ご施設2名様以上の参加が条件のセミナーではございましたが、今回からはその制限をなくしたことにより、医師・看護師・栄養士等80名近くの方にご参加いただくことができました。

まずご講演①の「カーボカウントの基礎」の講座では、カーボカウントをこれから勉強していこうという方にも分かりやすいカーボカウントの基本的な考え方についてご講演いただきました。ご講演②の「お寿司から学ぶカーボカウント」の講座では、カーボカウントの応用編として、お寿司にまつわるカーボカウントをご講演いただきました。最後のセッションでは、各グループで自施設における現状のカーボカウントを活用した指導状況や問題点についてディスカッションしていただき、自施設における今後のアクションプランについてまでお話をしていただきました。

参加者の方からは、「今までカーボカウントに接する機会がなく、勉強しようと思ったことがなかったので、今日をきっかけに自ら勉強するようにしたい」や「多職種のワークショップは情報共有の場として有意義でした」等、肯定的なお声を多数いただき、非常に満足度の高いセミナーとなりました。





第7回日本くすりと糖尿病学会学術集会

平成30年10月13日(土)～14日(日)

ウイングあいち

[当法人会員]

北里大学薬学部

堀井 剛史 [薬剤師]

10月13日から14日にかけて、「糖尿病患者の薬物療法ALLマネジメント」～罹病期間の長い糖尿病患者へどう対応するか～をテーマに開催された、第7回日本くすりと糖尿病学会学術集会に参加いたしました。本学会は特に薬物療法に焦点をあてた学会で、教育講演は11、シンポジウムは7、研究発表は口演、ポスター含めて105報で、その内容は基礎実験から臨床における患者教育まで、バラエティに富んだ内容です。シンポジウムや教育講演では、日本糖尿病学会でも盛んに討論されることの多い糖尿病腎症の進展予防についてと、本邦で行われた大規模臨床試験であるJ-DOIT3の報告を行った場が、参加者も多く活発な討論が行われていました。糖尿病における薬物療法は、糖尿病腎症の病期によって大きく変化し、有効性や安全性を担保するために用量調節や薬剤の選択が重要となるため、実臨床では頭を悩ませることは多いのではないかと思います。シンポジウム4では、腎機能低下症例での糖尿病治療薬の設計と問題点、合併症治療薬の使い方、腎機能低下を引き起こす薬剤についてなど、とても広範囲かつかゆいところに手が届く内容になっており、実臨床にすぐに応用できる内容になっていました。教育講演2では、糖尿病患者に対して積極的な治療介入を行うことによるベネフィットについて検討されたJ-DOIT3について、詳細な内容説明とシンポジストの見解について報告されました。海外における積極的な治療介入は有害事象の増加や、期待した治療目標の達成にいたらず、期待された結果が必ずしも得られていません。J-DOIT3では、薬物治療による有害事象を既報にくらべて非常に少ない割合に抑えられており、総死亡や脳血管疾患の減少など、複数のベネフィットが得られたことが報告されています。薬物治療の有害事象を未然に防ぎ、期待した効果を得るために、メディカルスタッフが中心的な役割を担うことが必要だと理解できました。研究発表で多く見受けられたのは、薬物療法のアドヒアランスについてです。糖尿病治療薬は非常に多くの選択肢を手にしてしている一方で、服薬アドヒアランスは他疾患にくらべて非常に低いことが分かっています。治療目標の達成は、いかにして忘れずに薬を飲んでもらうかが、大きな影響を与えると考えられます。研究報告はアドヒアランスの現状を解析したものからICTを使った訪問薬剤指導における情報共有の取組みなど、多岐にわたっていました。

本学会では基本的な知識を得ることから、日本全国で行っている糖尿病治療への取り組みを目にすることができ、また、参加者同士の距離感が近いので、比較的フレンドリーな雰囲気で開催されています。明日からの糖尿病療養指導に活用できる内容に溢れた学術集会で得るものが多い内容になっていますので、糖尿病治療に少し興味のある方、実際に治療に関わっているメディカルスタッフの皆さまには、来年の札幌大会にご参加をおすすめいたします。

事務局からのお知らせ



事務局へのお問い合わせは当法人ホームページで常時受け付けております。ご返信にはお時間をいただく場合がございますが、順次対応させていただきます。お急ぎの方は平日の10:00～12:00/13:00～16:00にお電話くださいようお願いいたします。

●2019年度年会費の納入が、1月7日より可能になりました。会員継続される方は、ご自身のマイページ「年会費納入のお願い」より、**3月31日まで**にご納入をお願いします。

研究会等のセミナー・イベント情報

◆主催事業 ◆共催・後援事業 □その他

第7回 糖尿病看護を語る会

申込必要

開催日：平成31年2月2日(土) 18:30～20:30

場所：国分寺労政会館 3階 第3会議室 (JR中央線「国分寺駅」南口下車 徒歩5分)

参加費：500円 申込：FAX：042-369-4620 (1/25締切)

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第1群>：1単位申請中

詳細資料の
同封あり

読んで
単位を
獲得しよう

答え 3 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説 第1、2期は原則として糖尿病の運動療法を行う、とあるが、第3、4、5期はすべて、原則として運動可。ただし病態によりその程度を調節する、とある。

(糖尿病療養指導ガイドブック2018 P71)

研究会等のセミナー・イベント情報

 主催事業
 共催・後援事業
 その他

 第9回 薬剤師糖尿病指導研究会

 申込必要

開催日：平成31年2月2日（土）14:50～17:20
 場所：国立市商業協同組合 さくらホール（JR中央線「国立駅」南口下車 徒歩3分）
 参加費：500円 申込：FAX:042-400-5952（1/25締切）

 詳細資料の
同封あり

- ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位
- ☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：0.5単位申請中
- ☆研修認定薬剤師更新単位：1単位申請中

 西東京CDEの会 第17回症例検討会

 申込必要

開催日：平成31年2月7日（木）19:00～21:00
 場所：国分寺労政会館 3階 第3会議室（JR中央線「国分寺駅」南口下車 徒歩5分）
 参加費：当法会員 700円 / 一般 1,000円
 申込：当法人ホームページのセミナー情報にある「申込みフォーム」よりお申込みください。（1/31締切）

 詳細資料の
同封あり

- ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位
- ☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：0.5単位申請中

 第5回 糖尿病とWell-aging研究会

 申込必要

開催日：平成31年2月9日（土）16:00～17:40
 場所：三鷹産業プラザ 7階（JR中央線「三鷹駅」南口下車 徒歩7分）
 申込：FAX:042-526-4698（2/1締切）

 詳細資料の
同封あり

- ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位
- ☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：0.5単位申請中
- ☆日本医師会生涯教育制度（カリキュラムコード：9、76）：1.5単位申請中
- ☆日糖協療養指導医取得のための講習会：申請中

 参加費
無料

 第46回糖尿病診療－最新の動向 [医師・医療スタッフ向け研修講座]

 申込必要

開催日：平成31年2月17日（日）9:45～16:00
 場所：国立国際医療研究センター 研修棟 5階 大会議室（東京都新宿区戸山1-21-1）
 参加費：3,000円（テキスト代を含む）
 申込：糖尿病ネットワーク申込ページ / E-mail / FAXからお申込みいただけます。（2/14締切）

- ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位
- ☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：1単位申請中 他

 糖尿病災害対策委員会 第7回医療者向けセミナー

 申込必要

開催日：平成31年3月6日（水）19:20～21:00
 場所：立川市女性総合センターアイム・ホール（JR中央線「立川駅」北口下車 徒歩7分）
 申込：当法人ホームページのセミナー情報にある「申込みフォーム」よりお申込みください。

 詳細資料の
同封あり

- ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位 (2/27締切)
- ☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：0.5単位申請中

 参加費
無料

 西東京CSII普及啓発プロジェクト 第16回研修会

 申込必要

開催日：平成31年3月12日（火）19:20～21:00
 場所：立川相互病院横 薬局棟2階・講堂（JR中央線「立川駅」北口下車 徒歩8分）
 参加費：当法会員 1,000円 / 一般 1,500円
 申込：当法人ホームページのイベント情報にある「申込みフォーム」よりお申込みください。（2/28締切）

 詳細資料の
同封あり

- ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
 〒185-0012
 国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
 TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
<https://www.cad-net.jp/>
 Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

編集後記



あけましておめでとうございます。昨年より広報委員に仲間入りした臨床検査技師の山口です。委員の皆さまに助けられながら半年が過ぎました。いつも会報を楽しく読んでいましたが、今度は作る側の楽しみも経験できるとワクワクしています。これからも“手から手へ”と皆さまの近くにある会報づくりを目指します。“MANO a MANO”本年もよろしく願い致します。
 （広報委員 山口 佳美）